

# コロナ禍における高齢者の学びの実態 —シニアを対象とした岐阜大学・十六銀行産学連携プロジェクト・ 「くるるセミナー」の取組—

益川浩一<sup>1),2)</sup>・生田ふみ<sup>1)</sup>・古澤法之<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup>岐阜大学・十六銀行産学連携プロジェクト・くるるセミナー（〒500-8833 岐阜市神田町 8-26）

<sup>2)</sup>岐阜大学 地域協学センター（〒501-1193 岐阜市柳戸 1-1）

## 1. 「くるるセミナー」の概要

国立大学法人東海国立大学機構岐阜大学と株式会社十六銀行（岐阜県岐阜市）は、産学連携プロジェクトとして、これからの日本の社会の「一大勢力」となっていく高齢者、つまり、「シニア世代」を対象に、生涯学習・仲間づくり・芸術・スポーツ・文化活動などにかかる学習プログラムを無償で提供するプロジェクト「くるるセミナー」を推進している<sup>1)</sup>。

「くるるセミナー」は、生涯学習・仲間づくり・芸術・スポーツ・文化活動などにかかる学習プログラムを、シニア世代に無償で提供しようとする取組である。介護保険の保険料負担の大きさや介護の大変さから社会の関心の対象となってきた要介護のシニアに加え、いわゆる「元気なシニア」、とりわけ職業という社会参加・参画の方途から離脱を余儀なくされ、自らの新たな生き方を模索せざるをえなかった男性シニアをターゲットとして、そうした人びとが、一人ひとりの自らの存在の意味の再確認に関わる「自尊心」の建て直しを図っていく上で、そして地域の人間関係の中で生きて暮らす自らの存在意義を互いに確認し合い、本当の自己を実現していく上で、シニア世代の学び、生涯学習はどのようにあるべきなのか。この課題について、自律的な教育・研究機関として地域社会に立脚し、地域住民の生活に奉仕すべき地方国立大学（岐阜大学）と、地域住民の生活の基盤である地域経済の活性化に奉仕し、かつ、地域コミュニティの動向が自らの経営に直接反映せざるを得ない民間企業＝金融機関（十六銀行）との共同事業スキームで、シニア世代をターゲットに行われているのが、産学連携プロジェクト「くるるセミナー」である。本プロジェクトは、2001年10月から開始され、事務局を銀行が担っている（くるる事務局）。

「くるるセミナー」においては、シニア世代に生涯学習プログラムを提供し、そこで新しい生き方を提示することで、彼らのこれまで生きてきた道を肯定し、尊厳を認め合いながら、彼らの中にある社会への貢献意思に具体的なイメージを与え、彼らの生きがいを進めるとともに、活力ある長寿社会を構築することが目指されている。そして、彼らの自尊心の保全と自己肯定感の形成が基礎となった、すなわち、彼らが生きがいをもって主役として活躍することができる地域コミュニティの再生を究極的に展望している。なお、「くるる」とは、活動的なシニア世代をイメージさせる「聞く」（セミナーを受講してみよう）・「見る」（見学してみよう）・「する」（学んだことを実践しよう）の語尾をとり、彼らが社会的にアクティブに「循環」という願いも込めてロゴ化された愛称である。セミナーは、シニア世代（おおむね60歳以上）であれば、誰でも受講することができる。

## 2. アンケート調査結果から捉えられるシニア世代の意識

本プロジェクトの開始にあたって、2001年にプロジェクト実施地区（岐阜県岐阜市）のシニア世代住民約2万名に対するアンケート調査（有効回答率約30パーセント）と100名に対するインタビュー調査が実施され、シニア世代のもつ意識が探られている。本調査は、名古屋大学と十六銀行によって、十六銀行に年金受給口座をもつ60歳以上の人びとを対象に実施された。その結果、例えば、次のような声が寄せられた（自由記述より（抄））。

### (1) 健康について

- \*3年前、脳溢血で入院しましたが、今では普通に健康で毎日元気にさせていただいて、家族楽しく暮らせまして、本当に有難うと感謝致しております。
- \*家族や友だち、よそ様のおかげで、これまで健康で生きてこられました。感謝の気持ちいっぱい、毎日を過ごしております。
- \*健康でいられることを心から願っています。家族に迷惑をかけないで生きたいと思う。仲の

よい家族がいて、いい友だちがいて、自分の好きな趣味がある。とても幸せです。

\*私はこの年になるまでずっと人様のお世話になって生きてきました。でも、何とかしてお返しをしたい。これからは、ボランティアをやるつもりです。

## (2) ボランティアについて

\*隣近所や社会の人々のおかげで、これまで生きてこられました。恩返しをするために、ボランティアとしていろいろな地域の活動に参加したり、これまでの人生の経験を子どもたちに伝えたりしています。

\*何か社会に役立つことをして、美しい心を作り出したい。いま、地域でお掃除の活動と子どもたちに本を読み聞かせる活動に参加しています。

\*お互いの生き方を尊重して、お互いのことを認め合って、穏やかに生活したいと思います。このような安全で安心な社会を作るために、少しでもお役に立てればと思います。

## (3) 趣味について

\*高齢となり、趣味を生かした横のつながりを大切にしています。横のつながりがあると友だちが増えます。横のつながりを通して、地域の活動に参加して、健康づくり或いは長生きに感謝して社会奉仕でご恩返しをしています。

\*草花が好きで、山野草、球根、草花を友達と交換して花の咲く楽しさ、人の和が広がって生きる楽しさを味わっています。趣味を通して、幸せです。

\*歌を聞いたり唄ったりすることが大好き、健康にもいい。習字を子どもに教えることが生きがい、趣味をとおして子どもと仲良しになれる。

## (4) 仕事について

\*編み物をうちでやっています。編み物が大好きで、編み物は自分の天職だと感じています。お客さんにできあがったものをお渡しするときの笑顔に、とても幸せを感じます。

\*現在妻と二人で市営住宅に住んで居ますが、福祉関係の仕事に従事して、妻はパート、自分は通所者（分場での作業時など）の送迎運転手をしている。健康で妻と共に同じ職場で働ける事が生きがいと思っています。

\*現役時代に取得した資格を生かして、定年後、再就職している。パソコンで市のホームページ作成のボランティアや写真を趣味とし、多くの友人とのコミュニケーションを図ることができ、健康にも恵まれ、今のところは充実した毎日を送っています。

## (5) 家族について

\*妻を亡くしてから生き甲斐を感じずることもなく、2年が経過しました。やっと趣味の魚釣りや旅行にも行こうと思う様になりました。

\*家族とは孫のことです。孫がなによりの生きがいです。

\*私の最大関心事、それは孫娘の成長です。

\*はじめての孫が誕生したばかりです。とてもうれしくて、満たされた感じがしています。孫一人でこんなにも感じがちがうなんて、思ってもみませんでした。人生が変化していくことでしょう。しっかりと、そしてきちんとした生活をしてゆかなければ……。

以上のような調査の結果から捉えられるのは、とくに「つながり」をキーワードとして、自分がさまざまな人びとに支えられて存在していることを確認し、そのことを喜びとしながら、「恩返しをしたい」と考えているシニア世代の価値観・意識の志向性である。シニア世代は、自分の教養を高めたり、趣味の上達を願って、愉快地に心豊かに人生を過ごしたいと考えているとともに、社会のために力を尽くし、地域の人びとのために役立ちたいと考えているのである<sup>2)</sup>。

## 3. 「くるるセミナー」の枠組みと実践

こうしたシニア世代の意識調査の結果などを踏まえ、「くるるセミナー」は、「もう一花咲かせ

て、もうひと肌脱ごう」をスローガンに、シニア世代の人びとに、「学習と自己の社会的な存在意義を保全する機会を提供し、彼らを励まし、彼らが新たな人間関係を作り出し、各種のコミュニティ活動やまちづくり活動を展開することを支援する」として、次のような構造化された内容をもつものとして編成されている。

### (1) 対象であるシニア世代の人びとを家から引き出して、学びの場へと向かわせる「基本セミナー」

めまぐるしく変動する国際社会について学習し、国際理解を進める「くるる地球散策セミナー」、手軽にできるストレッチ運動（柔軟体操）や、しなやかで活力あるカラダを作るための様々な運動を学ぶ「いきいき健康講座」や「くるるからだ工房」、自然体験活動をとおして環境問題についても考える「くるる自然塾」、日本文学の名作を音読しながら文章を読み進める「くるるお話大学」、地域の歴史・民俗・文化について学ぶ「くるる時代塾」・「くるる文化探訪」・「くるる歴史散歩」、パソコンの基礎について学ぶ「パソコン入門」、お茶を楽しみながらサロン形式で科学を学ぶ「くるるサイエンスカフェ」、ハンドベルやオペラなどを楽しむ「くるる音遊生活」、地元の木材・材料などを使って創作活動を行う「くるる工房」、地域創生を目指して産学官連携によって「ふるさと学習・郷土教育」を進める「くるるぎふ地域志向塾」、SDGs や AI、年金問題等社会的に関心の高い今日的な時事問題を学ぶ「くるる情報大学」など、シニアの要求（需要）や社会から必要とされている課題（必要）をテーマとして選定し、学習を進めることのできるセミナーが開催されている。基本セミナーは、3か月を1クールとし、1クールで6～8セミナー（1セミナー4～5コマ）が開催される。セミナーの1コマでは、必ず「ティーブレイクタイム」をとることとしている。お茶とお菓子をいただきながら、気軽なおしゃべりや触れ合いを通して、講師と受講生、また、受講生同士の「つながりづくり」が目指される。また、セミナー出席者には、修了式において修了証が贈呈される。

基本セミナーは、大学の研究者を監修者として、銀行関係者、社会的な実践経験豊富な「ディレクター」と呼ばれる人びとで組織される企画部会において、企画・運営される。最近では、セミナーを企画・立案する際の視点として、その中核にSDGsを据え、実施するセミナー毎に目指すべきSDGsのゴールを明示している。

### (2) 基本セミナーでの学習活動を基盤として、セミナー修了後、参加者が自分の意志で学び続け、活動し続けたいと思う者を中心にして、ボランティアや趣味などの学習グループの形成を図る「発展系サークル」

基本セミナーの展開を基盤に、参加者は、ディレクターや企画部会の指導を受けつつ、新たな仲間づくりを進め、発展系サークルへと導かれていく。基本セミナーの講師を中心に、有志によって組織され、定期的に活動が行われているサークルとして、「くるる合唱団」、「くるるニイハオサロン」、「くるるお話大学」、「いきいき健康クラブ」、「くるる男性専科（料理）」、「くるるの碁」、「くるるウォーキングクラブ」、「水墨画同好会」、「ドラムサークル」、「切り絵同好会」、「パソコンクラブ」などがある。

### (3) 「基本セミナー」と「発展系サークル」での学習の成果を生かして様々な社会的活動を行いたい人のために、社会的活動を紹介し、かつ、その仲間づくりを進める「自主活動」

例えば、発展系サークルである「くるる合唱団」は、地域の高齢者保健施設を訪問し、入居者と一緒に唱歌や昔の流行歌を歌って楽しむ「歌声広場」活動を行っていた。「いきいき健康クラブ」は、地域の介護高齢者保健施設に月2回赴き、自らが講師となって、デイサービスに参加するシニアに対して、健康体操などを指導し、一緒に健康づくりを楽しんでいる。

さらにここで紹介しておくべきことは、基本セミナーの修了生が、「くるるセミナー」を支援し、また、彼ら自身の自主活動を進めるためのサークルを組織し、運営していることである。これを、「くるるサポーターサロン」という。このサポーターサロンは、「くるるセミナー」修了者であるということ以外に、いかなる参加制限も設けられてはいない、自由参加で自主的な組織である。サポーターサロンは、日常的な「くるるセミナー」の運営を手伝い、発展系サークルや自主活動

の支援を行っている。最近では、サポーターサロンのメンバーが、それまでの人生で培い、蓄えてきた様々な力をもちよって、新たな企画を立ち上げ展開する活動を進めている。例えば、基本セミナー修了式における「発展系サークル紹介」企画の運営、「くるる合唱団」と手を結んだ「くるるコンサート」の開催などである。サポーターサロンは、今や、自主活動企画・運営センター的な役割も果たしつつあるのである。こうした自発的・自主的活動をとおして、シニアたちは、これまでの自分の人生の軌跡を仲間の中で肯定され、今の生活に生きがいを見出してだけでなく、自分が社会で必要とされ、社会で生きているのだということを実感しているのである。さらに、サポーターサロンは、発展系サークルの代表者の集まりという側面もあり、それぞれのサークル活動や自主活動の情報交換を行い、「くるるセミナー」に関わるシニア同士の得難い交流の場にもなっている。

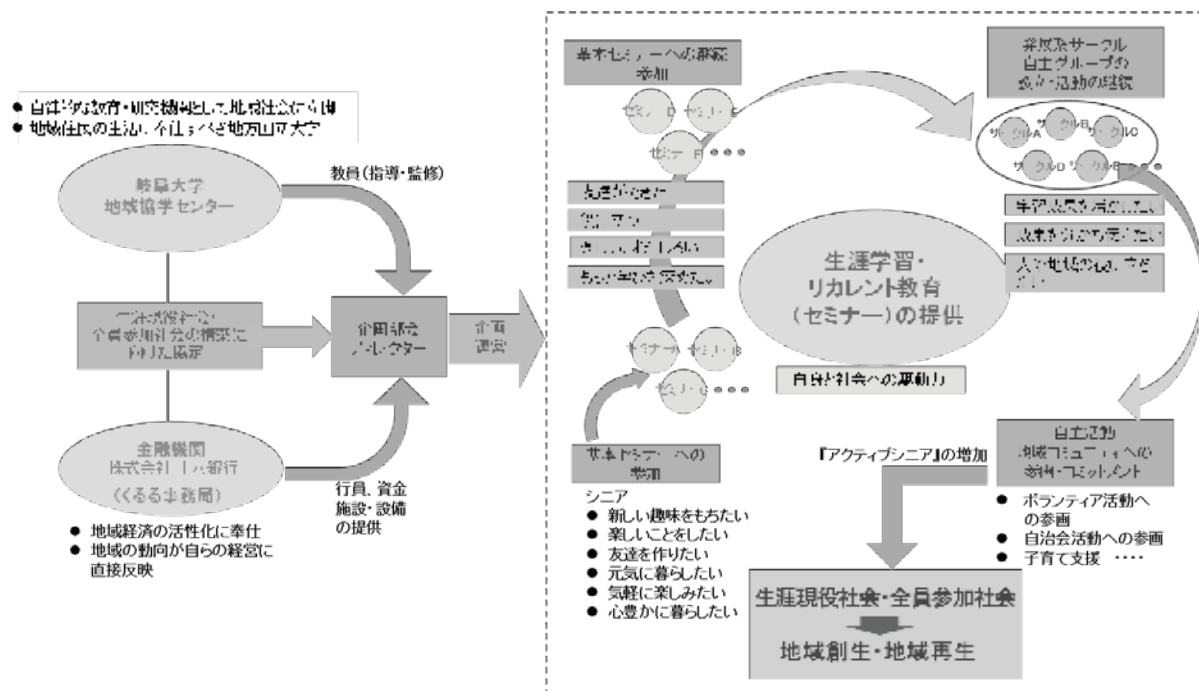


図1 くるるセミナー 概念図

(出典：東京大学高齢社会総合研究機構の web ページに記載されている村山洋史作成の図をもとに作成。  
URL: [http://www.iog.u-tokyo.ac.jp/?page\\_id=1908&lang=ja](http://www.iog.u-tokyo.ac.jp/?page_id=1908&lang=ja) 最終確認日：2021年9月30日)

このプロジェクトは、すでに20年目に入り、参加者であるシニア世代の人びとを中心とした活動へと順調に展開してきている。これまでの基本セミナーの受講者は、延べ約2万5千人に上り、継続的に「発展系サークル」や「自主活動」に参加し、日常的に活動しているシニアは、100名近くになる。

「くるるセミナー」の目指す究極的な目的は、セミナー受講による学習活動・サークル活動・自主活動における共同体験・共有体験を通して、お互い直接顔を合わせ、触れ合う中で、つながりや結びつきを強め、お互いの承認関係に基づく学習実践を行うことで、一人ひとりが尊重され、生きがいをもって生活を送ることのできるといった意味での(あくせくと、シニアを仕事や労働、社会参加に駆り立てるのではない)「生涯現役社会・全員参加社会」を形成することであるといえる。

#### 4. コロナ禍の「くるるセミナー」

コロナ禍の終息先が見通せない中で、「くるるセミナー」は、新型コロナウイルス感染症が重症化する危険性が高いことが報告されているシニアを対象としていることもあり、感染拡大防止を

図る観点から、2020年3月から休止せざるを得なくなった。全ての「基礎セミナー」、「発展系サークル」、「自主活動」は休止となった。

しかし、定期的に発行されている広報誌「シニアのための『くるるセミナー』」誌上や十六銀行の公式webページを通じて、「コロナ終息の暁には、セミナーやサークル活動、自主活動を再開します。また、元気にお会いできる日を楽しみにしています。」「また、一緒に勉強したり、体を動かしたり、何かを作ったりしましょう。」といった旨のメッセージをシニアに対して発信し続け、シニアの「くるるセミナー」とのつながり、「くるるセミナー」に対する愛着・帰属意識を保ってもらうように努めた。

そうしたところ、シニアの方からもリアクションがなされるようになり、「このコロナ禍で、くるるは、このまま無くなってしまわないかと心配しています。」「コロナの終息をただ待っているだけではなく、何らかの形でセミナーを受講できないか。」「くるるの仲間と、もう一度、勉強したりお話をしたり、活動したりする場を共有したい。」といったシニアの声が、多数寄せられることとなった。こうしたシニアの声や要望・要求に全て応えられないまでも、「くるるセミナー」を大切に想ってくれているシニアの想いに少しでも応えたいと考え、オンライン（オンライン会議アプリ）を活用した「くるるオンラインセミナー」を開催することとした。

オンライン会議アプリは、このコロナ禍で著しく普及したZoomを使うこととした。Zoomのミーティング機能を使ってセミナーを開講すれば、講師と受講者の双方向的なやりとりが可能となるのであるが、パソコンやスマートフォンなどオンラインセミナーを受講する際に必要とされる機器・機材の操作に不慣れなシニアが多いであろうことを勘案して、受講中の混乱を避けるため、まずは、ウェビナー機能を活用したセミナー、すなわち一方通行的に講師が講義を行うタイプのセミナーを開催することとした。オンラインの活用については、シニアに一定の拒否反応があったものの、その機器・機材の操作方法等について詳細な説明文を受講者に送付するとともに、電話等での相談にもきめ細やかに応じることにより、多少の混乱は見られたものの、多くのシニアがオンライン上で「基本セミナー」を支障なく受講することができた。なお、セミナーの時間は、画面越しの受講という状況を勘案して、通常（対面の際には）1回2時間程度（間にティーブレイクタイム有り）としていたものを、45分～1時間程度とした。

#### Zoomや機器・機材の操作方法等についての説明文

☆「Zoom」ってなに？

イベントやセミナーなどをオンラインで開催するアプリです。動画を視聴するような形で複数の方が同時にパソコンやタブレット、スマートフォンで参加できます。セミナー会場に向かなくてもご自宅で参加できます。

「Zoom」のウェビナーという機能を使用してのオンラインセミナー開催となっております。受講生の方の姿が映ることはございません。

※参加するだけの場合、Zoomの利用料金は発生しません。

☆参加するには何が必要ですか？

- ・パソコン、又はスマートフォンやタブレット。
- ・インターネットに接続できる通信環境。（視聴できる十分な容量又は無制限のインターネット環境のご利用をおすすめします。Wi-Fiでの通信を推奨しています。）

☆パソコンやスマートフォンの操作が苦手でも大丈夫ですか？

事前にくる事務局まで問い合わせいただければ、丁寧に説明させていただきます。パソコンが不得手な方でもご参加いただいております。

#### **【事前準備と視聴方法】**

＜スマートフォン・タブレットでご参加の場合＞

スマートフォン、タブレットでご参加の場合は「ZOOM Cloud Meetings」アプリをインストールしてご参加ください。

＜パソコンでご参加の場合＞

「Zoom」のアプリをインストールしてのご参加をお奨めしております。

ダウンロードからインストール方法まで別紙①でご案内しております。

<当日の参加方法>

お申込みいただいた方には、当日の参加に必要な「URL (https://zoom.us/ではじまる青色の文字)・ID・パスワード」をセミナー開催日一週間前を目処に、メールにてお送りいたします。

講座毎に変更しますので開催前日までは、メールをご確認ください。別紙②を参考にご参加ください。

※パソコンのセキュリティソフト等の関係で「Zoom」をインストールできなくても、参加は可能です。その場合は、別紙③を参考にご参加ください。

ご不明な点がございましたら、くるる事務局までお問い合わせください。

#### 【ご確認事項】

本セミナーお申込みにあたり、以下の点をご確認ください。

※ご参加人数に限りがございますので、ご案内する参加用URL等を他の方と共有したり、複数のデバイスでのご利用はお控えください。

※本サービスに使用する機器および通信媒体が正常に稼動する環境についてはお申込者自身の責任において確保してください。また、不正アクセスやコンピューターウイルス等により生じた損害、その他当行の責によらない事由によりお申込者に生じた損害については、当行は責任を負いかねますので、予めご了承ください。

※諸事情によりセミナーを中止する場合がありますのであらかじめご了承ください。

※通信費が発生した場合、お客さまのご負担となりますのでご了承ください。(Wi-Fi環境でのご利用を推奨します)。

また、オンラインセミナーが軌道にのってからは、「発展系サークル」が健康体操の指導に赴いていた地域の介護高齢者保健施設にもセミナーを配信し、「基本セミナー」受講者の裾野を広げることができた。



写真1 地域の介護高齢者保健施設への「くるるオンラインセミナー」配信の様子

2020年10月～2021年6月まで、例えば、次のようなオンラインセミナーが開催された（抄/敬称略）。

講座名	くるる時代塾オンラインセミナー～郷土の麒麟・明智光秀ダイジェスト～ 10月8日 13:00～14:00
講師	草野 道雄（オフィス関ヶ原） 19名申込み 16名受講

講座名	くるる地球散策オンラインセミナー ～ラテンアメリカ編：ベネズエラの現状～ 11月26日 13:00～14:00
講師	アブラハム サラザール（名古屋大学大学院生） 25名申込み 25名受講

講座名	くるるぎふ地域志向塾オンラインセミナー ～マイクロツーリズム・ご近所旅行のススメ～ 12月24日 10:00～11:00
講師	野口 晃一郎（フリーアナウンサー） 29名申込み 29名受講

講座名	くるる情報大学オンラインセミナー ～2021年に考える「暮らし・いのち・エネルギーはどうなるのだろうか？」～ 1月15日 13:30～14:40 52名申込み 37名受講
講師	神津 カンナ（作家）

講座名	くるる歴史散歩オンラインセミナー ～岐阜の由来 義婦山伝説の検証～ 4月13日 10:30～11:30 45名申込み 32名受講
講師	塚本 明日香（岐阜大学助教）

講座名	くるるからだ工房オンラインセミナー ～ぐっすり眠って元気になる！今日からできる快眠実践法～ 5月12日 10:00～11:00 45名申込み 40名受講
講師	三輪田 理恵（スリーピングマスター）

講座名	くるる文化探訪オンラインセミナー ～岐阜の地歌舞伎～ 6月7日 14:00～15:00 52名申込み 34名受講
講師	小栗 幸江（ミュージアム中仙道館長）

## 5. 「くるるオンラインセミナー」の意義と課題

コロナ禍で直接会うこともできず、触れ合うこともできない状況におかれることは、セミナー受講による学習活動、サークル活動、自主活動における共同体験・共有体験を通して、お互い直接顔を合わせ、触れ合う中で、つながりや結びつきを強め、お互いの承認関係に基づく学習実践を行うことで、一人ひとりが尊重され、生きがいをもって生活を送ることのできるといった意味での「生涯現役社会・全員参加社会」を形成することを目指す「くるるセミナー」にとって、極め

て厳しい事態であった。

また、オンラインセミナーを実施してみて改めて気づかされたのは、オンライン環境、とくにハード面での環境整備の遅れが、大学・銀行において著しいということであった。さらに、オンラインで活動するために必要なパソコン・スマートフォンなどの機器・機材の操作に不慣れであることがオンライン活動への参加のシニアの心理的な障壁になっている一面もあるということも分かってきた。

それでも、オンラインセミナー後に寄せられた受講者の感想からは、オンラインのための機器・機材の操作に悪戦苦闘しながらも（「パソコン対応が不慣れでとまどいがあった」・「Zoom に不慣れであり操作に手間取る。」・「接続が複雑でなかなかたどりつけませんでした。」等）、また、画面越しの受講に一定の違和感を感じながらも（「臨場感に欠ける。」・「外の空気が吸えないこと、皆さんの顔が見えないこと。」・「画面の切り替えに時間を要すること。」・「インタラクティブなやりとりが出来なかったこと、他の受講者の顔が見えなかったこと。」・「音声のタイムラグがある。」等）、オンラインの環境下を否定的（マイナス）にのみ捉えるのではなく、プラスに転じて捉え直し、そのメリットを最大限に生かしてセミナーを楽しんで受講している、シニアの姿を感じ取ることができた。

まず、何よりも、「楽しんで受講していた本講座の中断が、兎にも角にもこのセミナーにより再開されたことが良かった。」・「いつもお世話になっております。当日急用で途中からしか参加できませんでしたが、楽しく見させていただきました。また是非参加させていただきたいと思います。よろしく願いいたします。」・「対面での講座受講ができないことからストレスもたまりますが、このようなオンラインでの講座を開催していただき大変喜んでいきます。」といった感想が寄せられ、コロナ禍でセミナーを開催されたことに対する感謝の意が示された。画面越しのセミナー受講に対して違和感を感じながらも、セミナー受講を楽しんでいるシニアの姿、また、オンラインセミナーならではのメリット、例えば、「ウィルス感染の心配がない。」「自宅で受講し、他の人の目がない中で、自分のペース・スタイル、くつろいだ気分セミナーをゆったりと楽しむことができる。」「他の人の視線や圧迫感を感じることなく、気軽にセミナーを受講できる。」「会場までに行く時間が節約できる。」等といったメリットを生かし、オンライン環境下でのセミナーのマイナス面をプラスに転じて捉え直し、セミナー受講を楽しむシニアの「逞しさ」を垣間見ることができた。

ただし、オンラインセミナーには、課題も多い。オンラインセミナー後に寄せられた受講者の感想の中にはあまり示されなかったが、受講後のディレクターと受講生の電話等による会話によると、画面越しに一方通行的にセミナー（講義）が進むことにより感じる「疎外感」「虚無感」、「私はあなたの話を聴いているよ」といった「実際交流できているという感覚」、「手触り感」、「実感」、「主体的にその場に関わっている（その場に居る）という当事者性」のなさ、「リアルな現場の熱量」、「その場の雰囲気」、「居場所の共有感」が感じられず、共有できないこと、また、ずっと画面を見続けることによる身体的・精神的疲労感（「長時間、画面を見続けていると疲れる。」等）が課題として挙げられた。

「くるるセミナー」は、繰り返し述べているとおり、セミナー受講による学習活動、サークル活動、自主活動における共同体験・共有体験を通して、お互い直接顔を合わせ、触れ合う中で、つながりや結びつきを強め、お互いの承認関係に基づく学習実践を行うことで、一人ひとりが尊重され、生きがいをもって生活を送ることのできるという意味での「生涯現役社会・全員参加社会」を形成することを目的としている。このようなことを目指す「くるるセミナー」では、「一緒にその場を共有する」といった感覚を持ちつつ「居場所」を共有しながら「関係性」を紡ぐ「空間性」と、「直接会って、触れ合いながら一緒に学習する、体を動かす、何かを作る」といった「共同体験・共有体験」による「身体性」が重要な鍵になるであろう。この「空間性」と「身体性」の保持・保全が、対面形式のセミナーと比べると、オンライン環境下では困難であったといえるだろう。

オンラインのための機器・機材の操作に関する技術が向上してくれば、例えば、Zoom のミーティング機能、ブレイクアウトルーム機能、チャット機能による質問等を活用して、オンラインでの講師と受講生間の、また受講生同士のコミュニケーションづくり、オンライン活動における対



面・対話の場づくりも可能になろう。もちろん、リアルな対面・対話によるセミナーと全く同程度に、「あたかもその場にいるかのような感覚」・「一緒にその場を共有した」という「空間性」や「直接会って、触れ合いながら、一緒に学習した、何かを作った、体を動かした」という「身体性」を実現することは難しいであろうが、ポスト・コロナ時代のニュー・ノーマル（新しい生活様式）を見据えて、オンライン活動を単なる「対面・現場活動の一時的な代替手段」として捉えるのではなく、オンラインの特色・特質やオンラインならではの面白さ・メリット・可能性をもっと追究すべきであるともいえるだろう。

人びとの孤立化は、コロナ禍以前より社会的な問題になっていたが、コロナ禍においてそれがより深刻になってきているといわれている。このような社会においては、オンライン環境下であっても、これまでのつながりや関係を保全するとともに、新たなつながりの芽を作り出し、その糸口を得られるような取組を強めることが必要である。今回の「くるるオンラインセミナー」の取組は、コロナ禍という厳しい状況に直面して、また、ポスト・コロナ時代に向けて初めて試みた初歩的なチャレンジである。この試みが、少しでもポスト・コロナ時代のニュー・ノーマル（新しい生活様式）の中での新たなシニアの学びのあり方、「つながり」のあり方の参考になるのであれば、幸いである。

#### 注)

- 1) 「くるるセミナー」は、2001年に、名古屋大学と十六銀行の産学共同プロジェクトから生まれたアクティブシニアのためのセミナーで、2007年から、岐阜大学・十六銀行産学連携プロジェクト「くるるセミナー」として運営されている。詳細は、益川浩一『現代社会教育・生涯学習の諸相 実践編』大学教育出版、2014年を参照。
- 2) ひと循環型社会支援機構（牧野篤）『高齢社会の新しいコミュニティ』私家版、2002年を参照。